

令和2年度 第3号

# 湖畔

## 北海道立大沼学園

〒041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

[hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp](mailto:hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp)

園長 米田 浩二

児童福祉という分野では、業務（仕事）として直接児童に支援できる期間（時間）は限られています。私達の大沼学園ではアフターの対応はあるものの、児童が退園するまでが直接的支援の終期であり、児童相談所でも一部の例外を除いては、満18歳又は高校卒業までが支援の終期となっています。

児童福祉司になったばかりの20年以上前の話です。高校を中退し、遊び回ったあげくに家出した17歳の女子がいました。警察が札幌でその女子を発見し、自宅に戻るよう説得しましたが、それを拒否したため、18歳になる直前でしたが、警察からの通告（依頼）に基づき児童相談所で一時保護をすることになりました。

彼女は、児童相談所では態度を乱すことなく、私との面接にも熱心に応じてくれていました。一時保護所でも積極的に幼児の面倒を見るなど落ち着いた生活を送っていましたが、一週間後には満18歳となり、一時保護の継続は困難となりました。

父親と連絡を取り、自宅まで彼女を送って行きました。片道2時間半の道すがら様々な思いを吐露してくれました。「これからどうしていいかわからず、一人で悩んできた。警察でも児童相談所でも熱心に自分の話を聞いてくれた。もっと早く誰かに相談していればよかった」と。

当時は道内に自立援助ホームは存在しておらず、18歳となった彼女には、まずは仕事を探すよう説きました。働くことの大事さとそれを続ける力があなたにはあるとの話もしました。その後、役場の福祉担当者から、彼女が町内でアルバイトを始めたとの事実を聞き、自分の関わりが少しは役立ったかなと思いました。

私達が仕事として子ども達に直接関わる期間（時間）は限られています。たとえ、それが数年でも数週間でも、その出会いを大切に、自分が培ってきた経験やスキルを全力で注ぐ必要があると思っています。

子どもによっては、どんなに情熱を注いでも殆ど反応をしてくれない場合があります。ある集団から救い出した16歳の少女についても、関わっていた間はそっけない反応に終始していましたが、2年経ったある日に突然手紙をくれました。高校を無事卒業できたこと、あの時に救い出してくれなかったら今の自分はなかったと感謝の気持ちを示してくれました。当然ながら、感謝の気持ちが直接示されなくとも、子ども達の現在や未来にプラスになると信じて、必要な関わりや言葉を注ぎ続けることが大事だと考えています。

「一期一会」。この言葉を胸において、子ども達と過ごす時間を大切にしていきたいと思います。



# 「中卒生支援の1年」

自立支援課長 阿波加 忠純

3月上旬、3名の児童と数名の職員で、ちょっとした慰労会を開きました。今年度は当初から実科生（中卒生のこと）が2名在籍しましたが、在籍する中3生のほとんどが高校進学を希望し、就職希望者が稀になった近年では珍しいことです。

K君は中3の下半期初めに入所し、過年度の進学を予定して実科生となりました。認知の視野が狭く、複数の作業を同時に進めたり、見通しを立てたりすることを不得手とします。間もなく特別支援学校で寄宿舎生活を始めます。H君は年度当初の入所であり、すぐに実科生としてスタートしました。当初は、竹箒で通路を掃いている姿をみると、どちらが箒なのか見分けがつかないくらい貧弱でした。こちらも次の施設を活用して特別支援学校へ進みます。S君は、実は中3生。珍しくなった就職希望組で、年度下半期から作業クラブに所属して、限定的とはいえ実科生とともに活動してきました。この春から希望叶っての「社会人」です。

春は1万2千株の花の苗の作業。種まき、間引き、苗づくり、定植、花壇整備などに追われました。夏から秋は除草のくり返しという重労働。野球大会などお客様を園に招く行事に向けた準備や、学園祭の裏方も担いました。そして冬は、ひたすら除雪、排雪。降積雪が多かった今季でした。

児童数が減り、学校教育の導入によって作業時間数も減りましたが、環境整備作業というものはほとんど変わらないものです。これまで、実科生が不在のときは、職員が空き時間を作業にあててこなしてきました。15年以上前ならば、実科生の不在などあり得ず、最大時は20名近くが在籍し、日々園内で朝から夕まで様々な作業が展開されていました。

職員にとっても、実科生がいるのといないのでは仕事に要する技術が異なります。いれば、実科生に指示を出して動かし、その進捗を見極めながら作業の展開を考えなければなりません。大変なことですが、それが職員を鍛えてきたのも事実です。実科生の存在は、職員にとっても貴重なことでした。

3人の子ども達への感謝とともに、前途に平安があってほしいと願います。



## 新任職員の紹介（新しく大沼学園に着任された職員）③

### 「新任職員の紹介」

今年度は、7人の職員を迎え入れました。湖畔第一号から、数名ずつ自己紹介をしていただく形になります。

職・氏名	前所属
園長 米田 浩二（よねた こうじ）	室蘭児童相談所
主査（心理療法） 鈴木 大介（すずき だいすけ）	旭川児童相談所
主査 多田 将士（ただ しょうじ）	室蘭児童相談所
専門主任 山口 大輔（やまぐち だいすけ）	釧路児童相談所
福祉専門員 渡部 準矢（わたなべ じゅんや）	新採用
福祉指導員 佐藤 秀介（さとう しゅうすけ）	新採用
主事 三澤 快斗（みさわ かいと）	後志総合振興局保健環境部余市社会福祉事務出張所

### 「大沼学園での1年目」

福祉指導員 佐藤 秀介

本年度より大沼学園で勤務させていただきます福祉指導員の佐藤秀介と申します。社会人1年目ということもあり、慣れないことやできないことばかりですが、まわりの方々にサポートしていただきながら、日々大沼学園での業務にあたっています。

私は昨年3月に配属が決まり、「大沼学園では、大学で学んだものを生かして頑張っていこう」と意気込んでいました。いざ学園で働いてみると、自分が学んできたものや知識では対処できない場面を沢山経験しました。児童と関わり支援するということの難しさを痛感しました。私にできることは限られています。まずは、自分のできることを増やしていき、少しでも学園のため、児童一人一人のために働きたいと考えています。

### 「ご挨拶申し上げます」

庶務係 主事 三澤 快斗

令和2年4月1日付け、人事異動で参りました、三澤快斗と申します。以前は生活保護現業員として勤務しておりました。

4月当初、家庭訪問を基本とする仕事から庶務課への配属となり、不安を抱えての転勤となりましたが、大沼学園では常に子どもたちや職員の声が聞こえ、その賑やかさに元気づけられました。

しかしながら、実際に児童を支援する職員の話を聞くと、児童と向き合い続けることがいかに大変なのかと感ぜられることばかりです。苦勞の多い職員の負担軽減ができればと思い、現在まで仕事をしてきました。しっかりサポートできているのか不安な日々の連続ですが、今後も尽力して参りますので、よろしくお願ひします。

## 行事報告

\*子ども達の文章は原文のまま掲載しています

### 学園祭

福祉指導員 蠣崎 怜央

今年度の11月7日(土)に開催された学園祭でしたが、コロナ渦のため、例年よりも様々な部分が縮小された形での開催となりました。開催自体が危ぶまれましたが、関係機関やご家族、地域の皆様のご理解とご協力があったからこそ、当日まで漕ぎ付けることができました。本当にありがとうございました。

学校行事の一大イベントと言えば「学校祭」。あくまで個人的な思いですが、私はそのように思いながら青春時代を過ごしてきました。子どもの頃、準備等で友人や先輩、後輩と楽しく、時には言い合いをして、全員で輝かしいものにしようとしていたあの頃の気持ちが、今回の学園祭において一生懸命取り組もうとする子ども達を見ることで、懐かしむ気持ちがありました。それと同時に、大人になった今、運営する立場となり、おそらくあの頃もいろいろな大人の方に影ながら助けられ楽しい思い出となったのかなあという思いもありました。だからこそ、子ども達の一度しかない人生の中で、自分を形成する青春の1ページが、「つまらないもの」ではなく「かけがえのないもの」と成るべく尽力しようと覚悟し、業務に当たっていました。しかし、そんな思いとは裏腹に、当然かのごとく真剣に学園祭の準備をする子ども達を見て、杞憂だったなと感じたところです。

子ども達は皆、楽しいこと、好きなこととなれば実力の120%を発揮できる。それは本来子ども達が元々持っていた素晴らしい実力です。私としては出来る力があるのだから、好きなことでも苦手なことでも、実力を発揮できる胆力、新たな境地に赴こうとする挑戦心、出来ないこと、わからないことを知り、より上を目指そうとする向上心、これらを持って常日頃、生きていって欲しいと思います。

彼らは学園祭を通じて素晴らしいものを持っていることを証明しました。あとは大人である我々がその証明を持ってそれを伸ばしていけるよう、支えていけるよう、授けていけるよう、全力で自立支援に当たりたい、そう感じた学園祭でした。

最後に関係された皆様方、本当にお疲れ様でした。



僕は学園祭でアタック25をやりました。とても人前でやってきんちょうしました。そのあと昼には毎年やっている紫蘭寮の模擬店には親が来ていてできませんでした。午後からは備後やストラックアウトやペットゴルフとてもたのしかったです。今年はコロナで他の人たちの親とかが来ているところもあればこれしていない人の親もいて、とてもかわいそうでした。自分は学園祭は2回やっているの、1回目より緊張しませんでした。今年はもぎ店しかできなかつたけど親来てない人はやっていて、自分も本当はもぎ店やりたかったです。今年の学園祭はあまり楽しいことがへっていたんですけど、学園祭でアタック25や太鼓やもぎ店をできるところはやれたし、できなかつたところはできなかつたし、自分はとてもいい学園祭にできたんじゃないかなと思います。

小6 シオン

# 大沼岳陽学校公演

福祉指導員 成田 健吾

大沼学園ではクラブ活動として和太鼓の演奏に取り組んでいます。練習の成果を発表する場として令和2年11月13日に大沼岳陽学校にて公演会を実施しました。

和太鼓の演奏で一番大事なことは周りの演奏と自分の演奏を合わせることです。練習開始当初は演奏が全く揃いませんでした。児童達からは、「自分の演奏は揃っている」や「あっちのパートがずれている」等の他者を指摘するような発言が目立ち、練習の雰囲気もあまり良いものではありませんでした。しかし毎日練習を続けていくうちに、「自分だけで演奏し、周りにずれていることを指摘する」ではなく、「自分のほうから周りの演奏に合わせていく」という他者に歩み寄る意識が少しずつ芽生えてきました。すると少しずつ演奏が揃うようになり、演奏が揃うことで児童達も演奏することが楽しくなってきたようで、練習にも意欲的に取り組むようになってきました。

大沼岳陽学校公演会では同年代の子ども達が多数見ているなかでの演奏でした。とても緊張したようですが、良い経験になったと思います。児童達は今回の経験で学んだ他者を尊重し歩み寄るという意識を和太鼓の演奏だけではなくこれからの生活にも生かしてほしいと思います。

岳陽学校公演では、直前までは緊張していて太鼓をしっかり叩けるか心配だったけど、会場に行くと、全員が「がんばる」みたいな雰囲気があって、それで自分も頑張らなきゃって思って、緊張しているのが関係なく出来たと個人的には思う。

中1 コウキ

## もちつき

専門主任 筑間 久枝

今年新型コロナウイルス感染のリスクを考慮し、様々な工夫を凝らして開催しました。もちつきは日本の伝統的な行事ですが、近年では自宅で臼や杵を用いて、家族全員が集まって餅をつく機会は減っていると感じます。大沼学園に入所している子ども達も、実際に今回初めて餅つきを経験したという子がほとんどで、餅をつく動きはぎこちないものでした。

それは、若い職員も同様です。ベテラン職員に教えてもらいながら、慣れないながらも一生懸命に子どもと一緒に餅をつく姿が印象的でした。皆でついた餅は、寮内であんこときなこで味付けをしたり、雑煮にしました。そして、職員・子どもがそろって食卓につき、「ついた餅はこんなに柔らかいんだ」「これは〇〇先生が丸めた餅だから俺が食べるんだ」と楽しい会話をしながら、食事を取りました。

今回のもちつき大会のように、一緒に準備をし、餅をつき、食べ、片付けをし、子ども達と時間・経験を共有する。日々の生活でも同様ですが、こういったイベントが、子ども達の心に暖かい思い出として残ってくれればと願っています。

最後になりますが、各先生や栄養士さんなど、事前の準備から片付けまで、多大な協力を得て開催に至ることが出来ました。皆様の協力で子どもたちにとって大変貴重な機会を与えていただき、心からお礼を申し上げます。

私は、実科生として作業をしています。その作業の中で、杵を作ったことや、もちつきの準備をしました。

まず、杵を作るのは、1ヶ月程時間がかかりました。私は、木工作業が苦手なので余計に時間がかかりました。ただ、出来たときの達成感と、おいしい餅について、食べて欲しいと思いました。

もちつきの準備では、ほとんど私は参加していませんが、周りに餅が飛んでも大丈夫なように、配慮が凄いなと思いました。私も、人に喜ばれる配慮が出来るとなりたいです。

もちつき本番では、力を込めて餅をつきました。その中に小学生がいて、一人だけかわいく「ぺったん、ぺったん」と音を立てて餅をついて、微笑ましかったです。餅をついた後は、ちぎって、小さく丸めて、ちぎって、丸めてを繰り返して、小さな餅を作りました。餅を食べて、おいしいと思ったのと同時に、自分で作って人からおいしいと言われる料理を作りたいなと思いました。

実科生 コウキ

## スキー授業

福祉指導員 成田 健吾

令和3年1月21日及び2月12日に大沼岳陽学校鈴蘭谷分校の授業の一環としてスキー学習を実施しました。子ども達は楽しそうに滑っており、スキーの技術もとても上手くなっている様子でした。

大沼学園でスキー学習を実施する目的は「スキーが上手くなること」だけではありません。特に子ども達にスキー学習を通じて学んで欲しいことは2つあります。

1つめは「道具を大切に扱うこと」です。スキー道具やウェアはとても高価なものです。また12月上旬に実科作業班がスキー板のエッジ研磨やソール面のワックスがけを行い、子ども達が安全にスキーを滑れるように一生懸命メンテナンスを実施してくれています。子ども達にはスキー学習が始まる前に必ず「メンテナンスをしてくれた人に感謝して大事に使って下さい」と伝えています。

2つめは「社会のルールを覚えること」です。社会には様々なルールがあり、社会で生きていくためにはたくさんのルールを守らなければいけません。スキー場にも、ゲレンデの中央で止まってはいけない、レストハウス内では静かに過ごす。リフトの順番を守る等、様々なルールがあります。大沼学園で生活していくなかで、少しでもこういった社会のルールを覚え、社会に戻った際にしっかりと順応出来るように子ども達には指導しています。

私も幼少期に家族でスキーを楽しんだ思い出は今も良く覚えています。子ども達も大人になった際、大沼学園でスキーを楽しんだことを思い出してくれたら嬉しいです。

僕のスキー授業の感想は、二つあります。

一つ目は、グリーンピアですべった時です。リフトをのってすべっていると、とてつもなく急な坂があって、阿部先生に、ここは加速をつけないと、とちゅうでとまるから、と言われ、とてつもなくかそくをつけました。

二つ目は、七飯のスキーの時です。途中でたおれそうになったけれどたおれませんでした。そして、途中でカイトがこわいといいながら泣き、そしてシオン・ライム・阿部先生・大日向先生チーム、カイト・小林先生・日登先生・奥田先生チームに分かれて、ライムチームははやいペースで、カイトチームは超のろまチームに分かれてすべっていました。とても楽しかったです。来年は、三回できるといいです。

小5 ライム



## ご寄付

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(令和2年11月1日～令和3年2月28日)

澄 マサノ 様 国際ソロプチミスト函館 様 セイコーマート 様

函館フーズプランニング 高野 信子 様 セブンイレブン 様

七飯町更生保護女性会 様 朝日新聞社 様

Sole proprietorship CRUMA 様 匿名希望 様 (メリーチョコレート23個)

## 編集後記

3月は別れの季節です。退園予定の子ども達が、自身を持って自分の意見を言えるようになったり、周りの意見を受け入れられるようになったり、将来のことを前向きに考えるようになったりと、入所当初とは全く異なる姿がみられることがあります。ただ、大沼学園から巣立ち、社会に一歩足を踏み入れた時、目の前にはたくさんの苦勞・苦難が立ちはだかることと思います。そのときに、大沼学園で出会ったたくさんの人や、共に経験したことが、少しでも子ども達の力となってほしいと、強く願っています。

交替制の導入に伴い、100年以上の歴史を持つ大沼学園の体制が大きく変化してから、早2年が経過しようとしています。併せて、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、職員としても試行錯誤の1年となりました。子ども達のために我々が出来ることは何かを日々考え、時には力不足を実感しながら、支援にあたっているところです。

地域の皆様、各関係機関の皆様、保護者やご家族の方々、今年度も大沼学園を支えてくださり感謝致します。長い大沼学園の歴史を大切にしながら、これからも尽力していきますので、ご指導、ご支援よろしくお願い致します。

児童自立支援専門員 松山 一也

# 学 園 の 動 向

令和2年11月～令和3年2月

11月

- 2日 函館児相椎野秀基児童福祉司、三浦聖判定員（4日も）経過判定のため来園
- 5日 学園祭総練習
- 7日 学園祭（※例年より招待者を限定し開催）
- 9日 振替休校 買い物訓練（蛭雪寮・晩翠寮）
- 11日 運営会議 係長・主査会議 支援級（5名）伊達高等養護学校見学 中3研究授業
- 12日 職員会議
- 13日 和太鼓クラブ大沼岳陽学校公演
- 16日 内科検診 二計測 進学クラブ開始
- 18日 支援会議 給食会議 CARE 研修 岩見沢児相中澤睦子児童福祉司、齊藤公伸判定援助係長移送のため来園
- 23日 買い物訓練（芝蘭寮）
- 25日 中学生期末テスト（～26日）
- 29日 理髪  
(11月：入所1名／退所0名)  
\*\*\*\*\*

12月

- 7日 中央児相泉親志子ども支援課長、勝沼智子児童福祉司函館家裁少年審判立会及び面談調査のため来園 札幌市児相塩見菜葉児童福祉司、山田祐太児童心理司面談調査のため来園
- 9日 運営会議 係長・主査会議
- 10日 職員会議 旭川児相大森勲児童福祉司移送及び打合せのため来園(11日も)
- 14日 内科検診 二計測
- 16日 支援会議 CARE 研修
- 17日 実科生園外活動：函館ハローワーク
- 19日 園外活動：温泉入浴（蛭雪寮）
- 20日 園外活動：同上（芝蘭寮・晩翠寮）  
実科生園外活動：函館中央図書館
- 22日 分校大掃除



- 24日 もちつき
- 25日 2学期終業式
- 28日 訓練外泊開始（※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として一時帰省を中止し、必要最少限度の外泊を実施）  
残留寮及び行事開始
- 29日 残留行事：スキー  
(12月：入所0名／退所1名)  
\*\*\*\*\*

1月

- 2日 残留行事：温泉入浴
- 4日 残留行事：スキー、昼外食
- 6日 残留行事：温泉入浴、夕外食
- 7日 訓練外泊終了
- 8日 前夜から低気圧通過により未明まで降雪、早朝積雪約30cm 前日はJRの運休により外泊した児童の帰園を延期
- 12日 3学期始業式
- 13日 運営会議 係長・主査会議
- 14日 理髪
- 19日 旭川児相塙志穂児童福祉司面談調査のため来園
- 20日 職員会議 給食会議 CARE 研修 中3期末テスト
- 21日 スキー学習（グリーンピア大沼）
- 22日 札幌市児相高田義久児童福祉司、林祐輔児童心理司面談調査のため来園
- 25日 内科検診 二計測
- 27日 支援会議
- 28日 札幌家裁河野明日香判事補、荻野加奈子主任家庭裁判所調査官視察のため来園  
前夜から未明にかけての荒天により早朝積雪約50cm 午前中各寮除雪作業に追われる  
(1月：入所0名／退所0名)  
\*\*\*\*\*





2月

- 1日 今金高等養護学校入学選考試験（2名受検）
- 9日 中2性の懇話会
- 10日 運営会議 係長・主査会議
- 12日 スキー学習（スノーパーク）
- 14日 理髪
- 15日 内科検診 二計測  
札幌市児相高田義久児童福祉司、林祐輔児童心理司面談調査のため来園
- 16日 分校臨時休校 前夜からの低気圧接近による荒天のため



- 17日 職員会議 給食会議 医学診断
- 18日 小学生冬の体験学習
- 19日 今金高等養護学校合格発表（2名合格）
- 22日 授業参観日 札幌市児相本田祐亮児童福祉司移送のため来園
- 24日 支援会議
- 25日 中1・2期末テスト（～26日）
- 26日 私立高校合格発表（2名合格）
- 27日 私立高校合格発表（1名合格）  
（2月：入所0名／退所0名）

\*\*\*\*\*

